

## 第4章 実践事例—高等学校編—

事例 1　こころ・からだ・いのちを大切に、  
生き方を考える  
（県立豊岡高等学校全学年）

## 高等学校事例1

## こころ・からだ・いのちを大切に、生き方を考える

県立豊岡高等学校全学年

## 1 テーマ

こころ・からだ・いのちを大切に、生き方を考える

## 2 実践のねらい

自己への理解を深めるとともに、知識が実践へとつながるような体験活動をとおして、自尊感情を培う。また、自他共にかけがえのない命を今生きていることを実感し、自他の命を守っていかうとする姿勢を持つ。

## 3 テーマ設定の理由

## (1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は、兵庫県北部に位置する歴史と伝統のある学校であり、卒業後は親元を離れ、学生生活を送る生徒がほとんどである。生徒は、心や身体、命が大切であることについての知識は持っているが、それらを大切にした生き方については実践できていない。そこで、今まで多くの人に守られ支えられてきたことへの感謝と慈しみを実感させ、自他の命を大切に生きていくことの素晴らしさを実感させるべく、本実践に取り組んだ。

## (2) 指導のポイント

## 【感動の体験】

- ・人との心の交流等つながりを実感できる体験活動をとおして、人間関係の中で成長していくことを感じさせる。
- ・絵本や講演等をとおして、多くの支えの中で生きている自分の命を実感させる。

## 【感性を育む】

- ・救急現場の体験や、大切な存在をなくした人の話を直接聞くことをとおして、命の重みや人と支え合うことの大切さを感じさせる。
- ・自分を大切にし他者を思いやることが、人間関係を豊かにするということを実感させ、自身のこれからの生き方を見つめさせる。

## 【想像力の育成】

- ・命には限りがあることを意識させ、今生きている命を大切にすることについて考えさせる。
- ・人間同士の絆によって困難を克服できることの強さを感じ取らせる。

## 4 事前

## (1) 先生の準備

- ・いろいろな研修や書物・講演会等をとおして感性を磨く機会を持ち、命の大切さや生きることの意味を深く見つめる。
- ・事前に関係機関との綿密な打ち合わせを行い、事後の活動に生かす。

## (2) 教育課程上の位置づけ

- ・特別活動
- ・LHR

## (3) 子どもたちの準備

- ・生徒自らが学習体験したいテーマ内容について考える。

## (4) 家庭・地域との連携

- ・保健だよりや相談だよりを読み、自分の心や身体、命を大切にすることについて考える機会を持つ。
- ・取組の趣旨を説明し、理解や協力が得られるように働きかける。
- ・実際の取組の内容や感想等をまとめ、相談だよりをとおして報告することによって連携を図る。

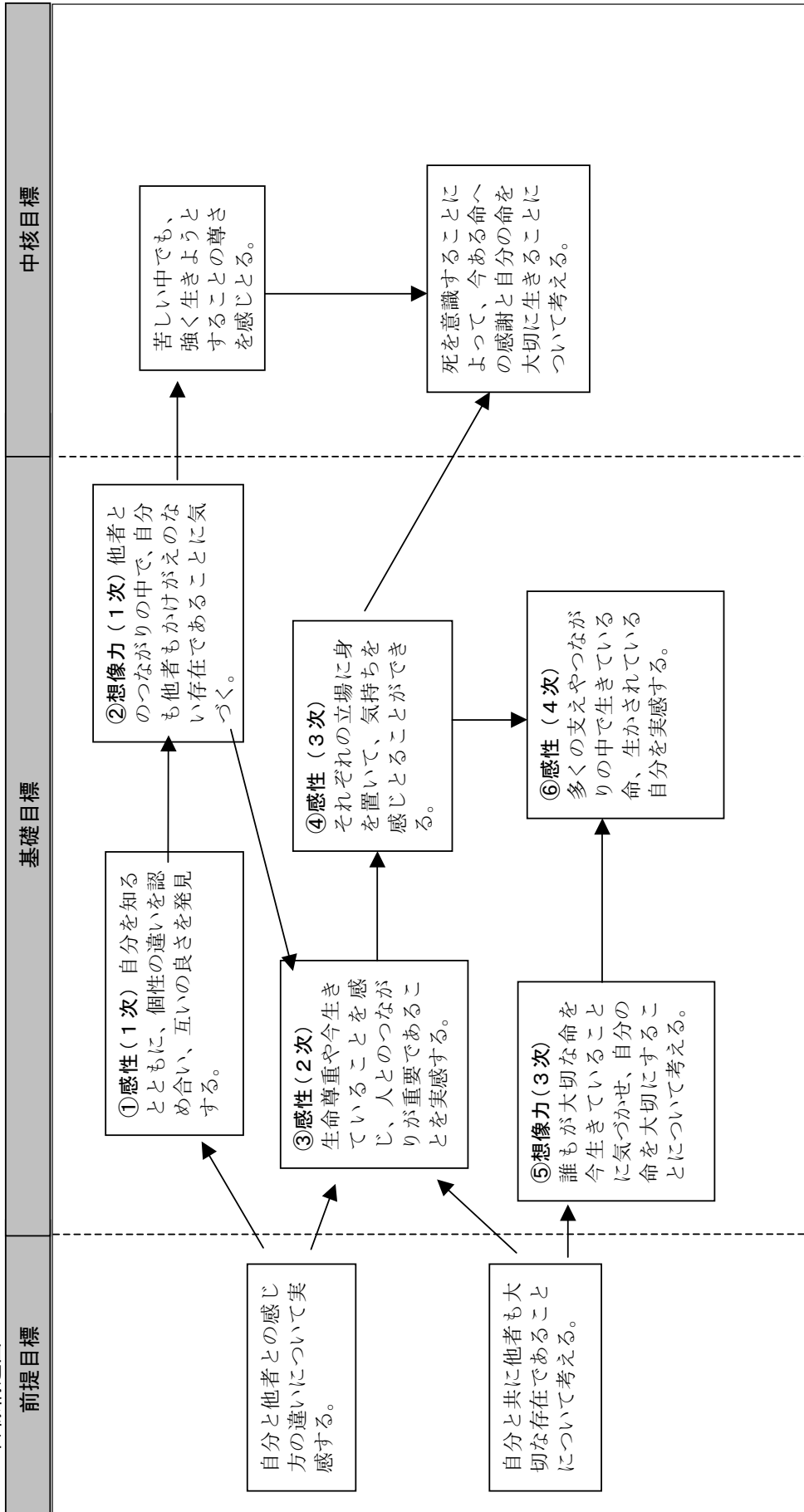
## 5 本校の実践の特色

知識が具体的な行動へつながっていくよう、体験活動や講演会などを企画し、生徒の主体性を引き出す。多面的な視点で物事を受け止め考えられるような工夫をする。生徒自らが自分を見つめ、かけがえのない自分のこころ・からだ・いのちを大切にしたい自分づくりに取り組み、自分らしい生き方を考えていけるように支援する。

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コミュニケーションを豊かに（話す、きく、話し合う）</li> <li>○ 自己理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分のコミュニケーションの取り方について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分と他者との感じ方の違いについて実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分と共に他者も大切な存在であることについて考える。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>
1次（2時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己理解を深める。</li> <li>○ 他者からみた自分について考える。</li> <li>○ 理想の自分について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分について知っている部分と知らない部分があることに気づく。</li> <li>○ 他者と関わることで自分の知らなかった部分に気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分を知らるとともに、個性の違いを認め合い、互いの良さを発見する。</li> <li>○ 自分の素直な気持ちを表現することをとおして、コミュニケーションの大切さを実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分と他者の受け止め方の違いについて考える。</li> <li>○ 他者とのつながりの中で、自分も他者もかけがえのない存在であることに気づく。</li> </ul>	
2次（7時間）	<p>&lt;体験活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 救急法のグループワーク</li> <li>○ 保健委員会の活動</li> <li>○ ふれあい看護体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 命のかけがえのなさ、人とのつながりを意識し、生きていることの大切さを感じる。</li> <li>○ 多くの支えの中で今生きていることに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生命尊重や今生きていることを感じ、人とのつながりが重要であることを実感する。</li> <li>○ 命の誕生を振り返り、大切に育まれた命の重みを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 命の尊さとそれを守るために、何が重要であるかについて考える。</li> <li>○ 命への感謝と自他共に命を大切に生きていることについて考える。</li> </ul>	
3次（1時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 絵本をおとして、大切な存在を喪失したときの感情に寄り添う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ いのちの有限性と多くの人に支えられ今を生きていることに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ それぞれの立場に身を置いて、気持ちを感じとれることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 誰もが大切な命を今生きていけることに気づかせ、自分の命を大切にすることについて考える。</li> </ul>	
4次（4時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 犯罪被害の遺族の話聞いて自分の生き方を見つめる。</li> <li>○ 今ある命を当たり前と捉えず、命に感謝し、よりよく生きる方法を考え、自分づくりに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多くの支えの中で、限りある命を私たちは生きていることを実感する。</li> <li>○ 思いどおりにならない体験から学ぶ姿勢を知る中で、自分を見つめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多くの支えやつながりの中で生きている命、生かされている自分を実感する。</li> <li>○ 苦しい中でも、強く生きようとするこの尊さを感じとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 死を意識することによって、今ある命への感謝と自分の命を大切に生きていることについて考える。</li> <li>○ 理想の自分や成長させたいところについて考える。</li> </ul>	
事後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 振り返りカードに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 素直な気持ちや気づいたことを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今までの自分の感じ方と違うところに目を向ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新たな自分を感じこれからの自分の生き方を考える。</li> </ul>	

7 目標構造図



(凡例) ①感性(1次) : 「①」は指導の順序、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「(1次)」は学習活動が「1次」であることを示す。

8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修（実施の時期については、(2)「指導の概要」の中に明記）

研修内容	
a	○子どもに寄り添うことについて考える。 ・リレーションづくり（信頼関係をはぐくむコミュニケーションについて） ・自己理解を深める。
b	○自尊感情を高める。 ・エゴグラムの活用、ストレスマネジメント、アサーション・トレーニングの体験
c	○生命の尊さについて再考する。 ・人生の障壁を感じながらも、自分の生き方を模索している人やそれを支える人の姿に学ぶ。
d	○よりよく生きることについて考える。 ・死を見つめることをとおして、今の生き方を見つめ直す。 ・今を大切に生きるとは？人生を豊かにするものは何か？等について考える。

(2) 指導の概要（全14時間）

	内 容	
事前	○コミュニケーションを豊かに（話す、聞く、話し合う）	教員研修 a
1次 (2時間)	○自己理解を深める。 エゴグラムのチェック、自分自身の特徴や傾向を捉える。	
	○他者からみた自分について考える。 長所・短所を出来るだけ肯定的で違った視点から見る訓練 ○理想の自分になるために エゴグラムを使い、具体的な目標を設定しながら、話し合いの中からの気づきを促す。	教員研修 b
2次 (7時間)	○体験活動① 救急法のグループワーク 災害や救急の現場から命の大切さに関する実体験を聞き、知識のみでなく、実践できる具体的な方法を体験することにより、自らの行動の変化への意欲につなげる。	指導実践(1) p 75～p 78
	○体験活動② 委員会の活動を通して（保健だよりの作成、救急法グループワーク、献血の啓発活動など）自分の人生を振り返り大切に育てられた命を、次は自分で守り育ていけるように委員会の活動を通して、メンバーで話し合いながら、自分とは違う考え方を知り、コミュニケーションで関係性が深まり、人とのつながりを大切に感じていく体験を行い、そして改めて自分の命を大切にしていけるために自分たちに出来ることについて考えさせる。	
	○体験活動③ ふれあい看護体験 医療現場における多様なケアを学び、命の大切さを改めて深く見つめさせる。その中において、自尊感情や自己信頼感を高め、仲間や人とのつながりの大切さに気づき、主体的な行動へとつなげていく。	指導実践(2) p 79～p 81
3次 (1時間)	○絵本をとおして限りある命について考える。 絵本『さよなら、ありがとう、ぼくの友だち ペットを失ったあなたへ』を用い、いろいろな立場に立って考えることをとおして、命には限りがあることを実感し、命のかけがえのなさに気づく。	指導実践(3) p 82～p 84  教員研修 c

4次 (4時間)	教員研修 d
	<p>○人生の意味について考える。（手記など）                  死生観から、今生きていること、出来ることの大切さを再認識する。                  思い通りにならない体験を、そこからどういう人生の意味を見つけられる人になるか？                  自分の命を輝かせるとは…？（相談日よりなどを通して考えさせる）</p>
	指導実践(4) p85～p87
事後	<p>○ゲストティーチャー：大切な人を喪失された方の話を聞く。                  頭で自分が考えていたことと、現実自分がそうであったならどうしただろうか？と                  自分に置き換えて考える。                  かけがえのない大切な命を、自分たちが今生きていることを実感する。                  これからの生き方を見つめて感想を書く。</p>
	<p>○これからの自分の生き方を考えさせ、今、出来ることは何かについて話し合う。                  身近なところに潜む危険から自分をまもる。自己コントロール…行動選択について                  場面を想定して考える。どうして危険な行動に走ってしまうのか？                  危険な行動をさけるために、ワークシートを使って自分を見つめる。</p>
	<p>○振り返り：感情・思考・行動への気づく。                  ○自分の変化に気づかせる。</p>

9 指導実践

2次	<b>体験活動① 救急法のグループワークを行う。</b>
----	------------------------------

- (1) 第1・2時 対象者（1，2年各クラス保健委員、部活動代表者、希望者約50名）
- ア 本時のねらい  
 災害時の救急活動についての話を聞くことをとおして命の大切さを実感し、危機に直面した時に冷静に判断しようとする姿勢を身につける。
- イ 指導のポイント
- (ア) 感動の体験  
 自分にも救える命があることに気づかせるとともに、命のかけがえのなさを実感させる。
- (イ) 感性を育む  
 講話やグループワークから、命を救うために自分にできることを考える機会をもたせるとともに、人とのつながりの重要性を実感させる。
- (ウ) 想像力の育成  
 ・命を守るために、何が重要であるかについて考えさせる。  
 ・今ある命に感謝し、自他の命を大切にしたい生き方について考えさせる。
- ウ 準備物  
 事前配布の救急法についての冊子、救急用具のセット、「命の大切さ実感尺度」シート（「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例集Ⅰ P213 参照）
- エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）
- (ア) 協力いただく救急救命士との打合せ  
 実際に命のかけがえのなさを実感した体験について話していただくよう依頼する。命について考えさせる機会としたいことをあらかじめ伝えておく。
- (イ) グループワークの進め方について救急隊員や保健委員と打ち合わせをする。
- (ウ) 災害時の救急隊の活動や心情を演じた演劇作品を鑑賞するなど、他の視点から命の大切さについて深く見つめる。

オ 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	<p>1 救急法のグループワークをとおして、命を大切に                      するために自分たちに何ができるのかを考える。                      （「命の大切さ実感尺度」シートの記入）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に資料を配布し各自が予習するよう指示する。</li> <li>・研修会の進行も生徒に行わせ、主体性をもって参加させる。</li> </ul>
	<p>2 救急隊員より災害時の救急活動についての話を                      聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>これまで学習した知識を活かし勇気と自信を持って、みんなで協力して大切な命を救おう！</p> </div> <p>3 救急法のグループワークを体験する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>グループワークの事例</b>                      （1）皆さんは野球部員です。フリーバッティングの練習中、ライナー性の打球が野手の胸部を直撃し、その場に倒れ込んでしまいました。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救えた命、救えなかった命、生死を分けたものについて考えさせる。</li> </ul> <p>〈グループワークの進め方〉                      ①自分にできることを考えさせる。</p>



展 開	<p>(2) 皆さんはバレエ部員です。一人の部員がブロックをして着地した時、相手の足を踏み転倒してしまいました。転倒した際、右手を激しく床に着いており、左足首と右腕・右肘部の痛みを訴えています。</p> <p>(3) あなたは陸上部員です。7月の異常に蒸し暑い日のこと…炎天下で 200mインターバル走を繰り返していた一人の部員が、突然意識を失い倒れてしまいました。</p> <p>(4) 騒ぎ声が聞こえるので行ってみると、そこには血まみれの先生が倒れていました。学校に侵入した不審者にサバイバルナイフで切りつけられたとのこと…前額部・右前腕からの出血があり、腹部にはナイフが刺さったままで、刺さったナイフを抜いてほしいといっています。</p>	<p>② 4～5人のグループになって実際に応急処置を行わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで協力し合って最後まで処置に当たらせる。</li> </ul> <p>③ 応急処置終了後に救急隊員より講評を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人やグループでの気づきを促す。</li> </ul> <p>④ 4つの事例を順に体験させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命を大切にしようという、今後への意欲に結びつけられるように、自分たちの行動を振り返らせる。</li> </ul>
	ま と め	<p>4 全体を通しての講評や感想を聞き、感謝のことは救急隊員に伝える。</p> <p>5 本時の感想を書く。                  （「命の大切さ実感尺度」シートの記入）</p>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) これから自分にできることとして、「誰かがやるのではなく、自分がする」「ただ見るだけでなく、積極的に行動する」「生きること、息をして今を精一杯生きること。人を大切にすること、相手を思いやること。人間はひとりじゃないことを知った。」等の感想が生徒から出されたが、これらは体験活動をとおして得られた貴重な言葉であると実感した。
- (イ) 知識を実践へとつなぐこの体験活動は、生徒の主体的な行動の原動力となることに気づいた。
- (ウ) 「命の大切さ実感尺度」は、救急法グループワーク体験後に自己肯定感、自己有用感、自然・生命への畏敬の念、連帯感の領域における得点が体験前に比べ高くなった。しかし、成就・達成感の領域においては、うまく行動できなかった思いからか、低下の傾向が見られた。こうした結果から、この救急法のグループワークを行うにあたっては、うまく処置することだけに目を向けさせるのではなく、大切な命を救うため自分にできることを皆で協力して考えることが大切である、という点を特に強調することが必要である。

振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○大切な命を守るために、自分たちにもできることは何だろうか？	
感性を育む	○命を救うために重要な人とのつながりについて考えよう。	
想像力の育成	○命を大切にした生き方について考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



処置について役割分担を指示しています



協力して手足の固定をしています



AED を使い心肺蘇生法を実践しています



どうすればいいのか…？

## ☆救急法グループワーク後の感想☆

①大切な命について感じたこと、②色んな関係の中で生きている自分の命、③これから自分に出来ることは何かについて、考えて書いてみてください。

**参加者の感想**

- ・「何で命が大切なのか」「何で生きなくちゃいけないのか」という質問を改めてされると、はっきりと答えられませんでした。一人ひとりに大切な役割があって生きていると教えていただいて、改めて命を大切にしないといけないと思いました。自分に出来ることはそんなにたくさん無いかもしれない、そんなに大きなことも出来ないかもしれませんが。しかし今、自分に出来ることを少しずつやっていきたいと思っています。
- ・大切な命を亡くしたとき、とても悲しむであろうと思います。自分でこの命を投げ出そうとしたとき、周りの人々のこともしっかり考えたい。一人ひとり何らかの役割があるとおっしゃったが、確かにそうだった。よく言われるのは、人は自分ひとりでは生きていけない。周りの人がいてやっと生活できるようになる、とよく聞きます。周りのことをやはり考えていかないと、これから自分の人生様々なことがあると思いますが、今日学んだことを活かしていきたい。

**①大切な命について感じたこと**

- ・命はこの世にたった一つであり、よく考えてみれば奇跡だと思うので、絶対大切であり、無駄にはしたくないと思います。
- ・たった一つしかなくて貴重で、言葉には表せないものだと思う。大切なものであり、重たいものだと思う。
- ・この体験で以前よりも命の大切さがわかったし、知識も増えました。
- ・自分の力で結果が変わる命があるなら、出来るだけの努力を尽くしたい。
- ・命は本当に1つしかなくて、当たり前ですが大切だと思った。

**②色んな関係の中で生きている自分の命**

- ・お父さん、お母さんがいて、そのまたお父さん、お母さんがいて・・・今私が生きていることは幸せなので、みんなに感謝したい。
- ・何かのために、誰かのために、そして自分のために今、生きているのだと思う。
- ・今まで知らなかったことを沢山学び自信がついた。何かあったときにはこの体験で覚えたことをフルに使って命を救いたい。そして救える命を自分の力で増やしていけたらいいと思います。
- ・自分ひとりの命ではないということを知り、日々感謝。
- ・自分の命は周りの助けによって生かされていると思う。

**③これから自分に出来ること**

- ・これから生きていく中で、自分に出来ることは自分の命も大切に他の人の命も大切にすることだと思います。困っている人がいたら必ず助けに行けるような人になりたい。
- ・4つの体験をしてなかなか出会えないことでも体験できたので、すごく自信がついて何かあったら先頭に立って行動していきたい。
- ・知ることだけではなく、行動できることを考えたい。
- ・いざ誰かがケガをしたら助けるようにしたいと思う。見ているだけじゃなくて行動だと思った。



救急隊員の講話を聞いています

2次 体験活動③ ふれあい看護体験に向けてトラストウォークの体験をする。

(2) 第6時 対象者（全学年の希望者約40名）

ア 本時のねらい

ふれあい看護体験に向けて、違った視点でものを見ることや今を大切に生きることについて考える。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

自分のサポートの仕方についてトラストウォーク体験をとおして見つめさせ、対人援助における対応のあり方について気づかせる。

(イ) 感性を育む

トラストウォークを体験して、普段いかに視覚に頼って生活しているかに気づかせ、視覚以外の感覚から様々なものを感じとらせる。

(ウ) 想像力の育成

トラストウォークの体験から、相手の立場に立って考えることの重要性を感じるとともに、どのように援助するかといった人との関係のあり方について考えさせる。


ウ 準備物 「命の大切さ実感尺度」シート

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 協力していただく担当教員との打合せ

- ・トラストウォークの目的や必要とされる指導時間、効果的な進め方等について話し合う。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 体験活動の前に「命の大切さ実感尺度」シートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の日常生活が充実しているか振り返らせる。</li> <li>・今どのように感じているのか、自分に素直に問いかけさせる。</li> </ul>
展 開	2 トラストウォークの体験をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアになり一人は目を閉じて、もう一人は目を閉じた人を誘導する。その際声を出さずに案内する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">                         実際にトラストウォークを体験してみよう！                     </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割を交代して反対まわりをしてみる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室から廊下に巡回するコースを設定する。</li> <li>・危険なものがないよう留意する。</li> <li>・けがのないように十分注意させる。</li> <li>・お互いを信じ合い、思いやりの心を養う体験となるよう、精一杯の優しさを発揮させる。</li> </ul>
	3 お互いの感想を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・してもらって良かったこと、安心できたことを先に伝えさせる。</li> <li>・次に、こんな風にしてもらっていたらより安心できたと思うことを伝えさせる。</li> </ul>

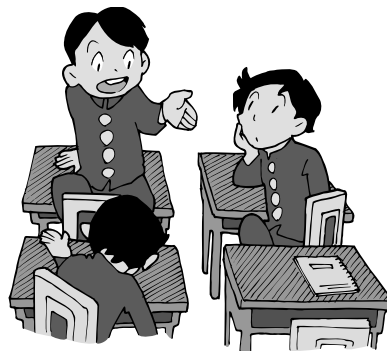
ま と め	<p>4 本時を振り返り、感じたことや考えたことを自由記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が思っていることと、相手が思っていることが違ったりして、相手の気持ちを考えて接するのは難しいと感じたが、実はそれが一番大切なことだと思った。</li> <li>実際に患者の立場や看護する立場を簡単な方法で体験してみて、相手の思いを感じとることの大切さを感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感じたことを自由に記入するように促す。</li> <li>これからの体験活動においても、自分の五感をフルに活用し、自他を大切にするための、感性を高めて欲しいことを伝える。</li> </ul>
-------------	---	---

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) ふれあい看護体験の事前指導として他者をサポートするトラストワークを実施したところ、生徒たちは人を援助することのむずかしさを強く感じた。
- (イ) 「いきなりの体験でびっくりしたが、不安だったこと、安心したことについて分かり合えた。それを友だちに伝えるのは何となく恥ずかしかったけれど、互いに分かり合える体験ができたことはよかった」と人とのつながりの大切さを意識し始めた言葉が出ており、次の体験活動が充実したものとなることが期待できた。
- (ウ) 「命の大切さ実感尺度」については、体験の前後で値が高くなる変化がみられたものは、自己肯定感、自然と生命への畏敬の念の領域であった。反対に低下したのものには、愛する、愛される喜びの領域があった。安定感が揺らいでいるのか、ゆっくりと自分のことを話す相手や、家族との会話が少なくなってきたと感じているようである。人とのふれあいの大切さを実感した機会であったと思う。



大丈夫だよ、僕を信じて



キ 振り返りカード

振り返りカード		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○サポートしている時、されている時、あなたは何を感じましたか？	
感性を育む	○視覚以外のどんな感覚をあなたは働かせましたか？	
想像力の育成	○違った感性を持つ人との関係の中で生きている自分、大切にしていきたいものは？	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

☆ふれあい看護体験後の感想☆

- ・最近、自分と同じくらいの年の子が事故でなくなったり、5月には身近な人を亡くしたり、死や命、生きることについて考える機会があった。自分はたくさんの人に支えられていること、生と死はいつも隣り合わせであることを感じた。明日、何が起こるかわからない世の中、生かされていることに感謝し、命を大切に精一杯生きていきたい。そして自分の周りの人たちを大切に、将来看護師になって病気の人の支えになれるよう頑張っていきたい。
- ・今日この体験を終え、「生きること」って本当に素晴らしいことだと思った。自分の命は決して自分だけのものではないと思う。大切な家族や友達みんなに支えられて私は生きているということ、たくさんの人々の支えがあって、よりよい生活が出来ていると思った。私がこれから出来ることは、たくさんの人と支え合っていくことだと思う。たくさんの人が幸せに暮らせるように、自分も誰かのために役に立ち、周りを笑顔いっぱいになりたいと思っている。



病室で説明を聞く生徒



赤ちゃんを抱く生徒

3次	絵本をとおして限りある命について考える。
----	----------------------

## (3) 第1時 対象者（1，2学年全員）

## ア 本時のねらい

絵本『さようなら、ありがとう、ぼくの友だち ペットを失ったあなたへ』を用い、誰もが経験する大切な存在をなくす体験について考えることをとおして、命には限りがあることを実感し、命のかけがえのなさに気づく。

## イ 指導のポイント

## (ア) 感動の体験

大切な命を失った時の感情に寄り添う体験をとおして、命のかけがえのなさに気づかせる。

## (イ) 感性を育む

死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感させる。

## (ウ) 想像力の育成

- ・「自分がその立場であったなら…」と、それぞれの立場に自分を置いて感じとらせる。
- ・誰もが大切な命を今、生きていることに気づかせるとともに、限りある生を精一杯生きることの素晴らしさを実感させる。

## ウ 準備物 絵本『さようなら、ありがとう、ぼくの友だち ペットを失ったあなたへ』（岩崎書店）、絵本の朗読テープ、ワークシート

## エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

- (ア) 命を大切にした生き方を生徒が見つめられるよう、様々な状況にある人の思いを想像する必要性について、相談日より「いのちのともしび」をとおして知らせておく。
- (イ) 各学年への取組の趣旨説明と授業の進め方についての打ち合わせ
  - ・次の講演会へつないでいくための理解と協力を要請する。
  - ・各家庭においても命のかけがえのなさについて話し合う機会を持つことを依頼する内容の保健だよりを配布する。
- (ウ) 配慮を要する生徒が存在する可能性もあるので、個別に話を聞く時間を設定するなど、事前の個別指導や事後のフォローを充実させる。



オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 本時の学習のねらいを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大切な存在をなくす喪失体験について「自分がその立場であったなら・・・」と考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に、極端に悲しい経験等をした生徒がいないか把握する。</li> <li>気分が悪くなるようであれば遠慮せず知らせるように指導する。</li> </ul>
展 開	<p>2 絵本の朗読テープを聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">大切な存在をなくした人の気持ちを想像してみよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感情を込めてゆっくりと読み聞かせる朗読テープを使用する（15分間）。</li> </ul>
	<p>3 朗読テープを聞いた後、感想を書く。</p> <p>(1) 自分がもし主人公の立場であればどんな思いを持つか。</p> <p>(2) 主人公の立場であればどんな思いを持つか考える。</p> <p>(3) 亡くなったラッキー(犬)の思いを想像してみる。</p> <p>3 4つのグループを作り話し合い、発表する。</p> <p>(1) 感想</p> <p>(2) 主人公の気持ちを考えるグループ</p> <p>(3) 父親の気持ちを考えるグループ</p> <p>(4) ラッキーの気持ちを考えるグループ</p> <p>4 グループで出た意見を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表を聞く時は、自分と違った意見をメモする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単に悲しいだけでなく、自分であればどのような行動をとるか、どんな言葉をかけるか。残されたものへのメッセージを想像させる。</li> <li>気持ちを自由に考え、発表できるように小グループ（4～5人）に分ける。</li> <li>各グループで素直な意見が出しやすいように配慮する。</li> <li>グループの意見だけでなく、他の人の意見に耳を傾け、自分との違いに注目させる。</li> <li>他のグループや友人の意見に耳を傾けさせる。</li> </ul>
ま と め	<p>5 各グループの意見を踏まえ、改めて自分の感想を書く。</p> <p>次回の講演会の予告（本時で考えたことを思い出しながら、講師の言葉を聞くように伝える）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>命には限りがあるが、その限りある命を精一杯生きることの素晴らしさについて確認する。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 人生において誰もが経験するであろう喪失体験について、それぞれの感じ方や受け止め方があるため、それを素直に表現させたいと思い、教材として絵本を使ってみたところ、想像以上の反応があったように思われた。すぐれた絵本は素晴らしい教材となり得ると改めて実感した。
- (イ) 各ホームルームで実施した朗読は、放送部の生徒が朗読したものをテープに録り一斉に流した。その後は各担任が次の講演会へつながるまとめを工夫し、その主体性・独創



性に感激した。企画者の一人として大変嬉しく思う機会であった。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○大切な存在をなくした時の感情について感じたことは？	
感性を育む	○いろんな立場から感じたことを話し合う体験をとおしてどんなことに気づきましたか？	
想像力の育成	○今改めて命を大切にすることについての、あなたの考えは？	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

4次 第2・3時	犯罪被害者遺族の声を聞くことにより、かけがえのない命を失った悲しみや怒りに ふれ、命のかけがえのなさについて体験的に実感する。
-------------	--

(4) 第2・3時 対象者 (1, 2学年全員、保護者、職員)

ア 本時のねらい

犯罪被害者遺族である山下京子さんの話を聞き、自己中心的に物事を考えるのではなく、多面的な視点でこれからの自分の生き方をしっかりと見つめ考えることと、今自分たちが生きている命について再考する。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

かけがえのない存在を失い、思い通りにならない体験から、今自分の生き方を模索している姿を知る。

(イ) 感性を育む

被害者、遺族 (母親・父親・兄妹) の立場として、あるいは加害者の立場や第三者としてなど、それぞれの立場に自分を置き換えて感じ、受け止めさせる。いろんなつながりの中で、豊かに生きること、生かされている存在であることを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

死を意識することとおして、今ある命へ感謝の思いを持たせ、自分の命を大切に生きることについて考えさせる。

ウ 準備物 神戸市須磨区児童連続殺傷事件の概要を記した相談日より「いのちのともしび」感想記入用ワークシート

エ 先生の準備 (事前の打ち合せと教員研修)

(ア) 相談日よりで、ゲストティーチャーが執筆した手記や、事件の概要について事前学習できる資料を作成する。

(イ) 各学年に取組の趣旨説明と進め方についての打ち合わせを行う。

- ・講演会后、各自の生き方を考える手だてとなるように、各担任へ理解協力を要請する。
- ・家庭とのつながりを深めるために、学年通信や相談日よりを介して感想文を掲載できる準備をする。

(ウ) 配慮を要する生徒が存在する可能性もあるので、キャンパスカウンセラーにも同席を依頼する等、個別指導や事後のフォローについて検討しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 講演会の趣旨説明を聞く。 犯罪被害に遭った方より直接話を聞くこととおして、命の大切さを深く見つめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に、極端に悲しい経験をした生徒がいらないか調べておく。</li> <li>・気分が悪くなるようであれば知らせるように伝える。</li> </ul>
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     ゲストティーチャー (山下京子氏) による講演を聞き、命の大切さを深く見つめよう。                 </div> 2 「彩花が教えてくれた <sup>しあわせ</sup> 幸福 ～絶望の中に希望を拓くとき～ …約70分間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真剣な態度で話を聞くよう指示する。</li> </ul>
ま と め	3 講演会后、感じたことを感想としてまとめる。  後日、ゲストティーチャーからの手紙“高校生のみなさんへ”を相談日よりの中で紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「命を大切にすることについて、自分なりの意見をまとめさせる。</li> </ul>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 3次で絵本を使い素直に感情を表現したり、様々な状況に想像をめぐらすことができつつあると感じられた後に今回の講演会を持つことができたことで、生徒の「命の大切さ」についての考えの深まりを感想等とおして推察することができた。
- (イ) 本時の後半部分を各ホームルーム単位で実施できたことで、担任それぞれの工夫が見られた。例えば、講演会のまとめや感想文を学年通信や学年のホームページに掲載する等である。さらに、行事の関係で講演を聴講していない3年生に対しては、ショートホームルームや授業の中で折にふれ講演の概要を伝えた。「命の大切さ」について考える働きかけが学校全体へと広がっていったことは、思いがけない展開であり嬉しく感じた。
- (ウ) 今後も、生徒の感想を相談日よりなどで繰り返し紹介し、生き方をみつめさせ、題材として取り上げていきたいと考えている。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○犯罪被害に遭うなど、思い通りにならないことに遭遇したら、あなたは何を考え行動しますか？	
感性を育む	○今までに支えやつながりを意識したことがありますか？	
想像力の育成	○今改めて命を大切にしたい生き方について、どのように考えていますか？	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



## ☆山下京子さんの講演を聞いて☆

## 「命を大切にすること」とはどのように生きていくことだと思いますか？

- ・私は今まで自分なんていなくなっても何が変わるわけでもないし、生きていて何の意味があるのかな、と考えることがありました。毎日学校には来ないといけないし、毎日悩んだり嫌な思いをしたりして、本当に嫌で仕方ないようなときもありました。でも、今日の講演を聞いていて、自分の悩みなんてほんの小さなことだったんだと、すごく思いました。自分の子どもを亡くしてしまった人が、あんなに強く生きているのに、自分はくだらないことを考えていたんだなあ自分が馬鹿らしく思えました。命を大切にすることは、私にとって人生を無駄にしないことです。これを実行するためにも、毎日頑張りたいです。
- ・自分の心を大切にすること。きれいな心を持って人に接すること。この世界にはどんな人も自分という人間は一人しかいないことは頭では分かっていた。「いのちを大切にすること」これも何度も何度も聞いてきた言葉だった。でも今日新しく感じたことは「心」ということだ。「心」にある自分の気持ち、相手の気持ち。これはもうひとつの「いのち」だと思った。人は傷つくこともあれば、励まされ一歩前に気持ちが前進することもある。自分の気持ち、相手の気持ちを考えるということは、「いのちを大切にすること」につながっていると思う。そうすれば自分のいのちも、誰か他の人の命も傷つけることなんてないと思う。「いのちの大切さ」まだまだ分かっていないことばかりだろう。もっと重いものなのだと思う。それでも今日の講演で学んだことを忘れたくはない。
- ・今日の講演会で、自分がどのような存在か、親がどのように自分を見ているかが分かった。今、自分は命を大切にしていないと思う。好きなことは頑張っているが、親を困らせてばかりで、親のためになることを何一つできていない。そんな自分がひどく情けなく思えた。これから先、自分にどんな悲しみが待っているか分からない。でも、「逃げる」のではなく、「挑む」態度でその悲しみを乗り越え、一度きりの人生を大成させたいと思う。
- ・今当たり前に過ごしている毎日。明日もあさっても当たり前にあると思っていた。でも、今日の山下さんのお話を聞いて、もっと一日一日を大切に、意味のある毎日を過ごしていこうと思った。講演を聴きながら、色々なことを考えた。自分がどれほど親に愛されているか、どんなに幸せなのか……。生きることの意味、命の意味を真正面から考えることができた。私は今まで、身近な人の「死」を経験したことがないので、どれだけ苦しく、悲しいか分からない。でも、今自分がどう生きていくべきか、何をすればいいのか、わかった気がする。この先絶望的な壁にぶち当たったとき「逃げる」のか「挑む」のか自分の気持ちで180度変わる”という言葉思い出したい。「いのちを大切にすること」とは、私を支えてくれている家族、友達、先生、いろんな人に感謝し続け、生きていく限り、恩返しをし、私がもらった沢山の愛を、私が沢山のの人に届けられる生き方をしたい。限りある残りの人生を精一杯楽しみ、笑顔いっぱい過ごしていきたい。改めて…私を産んでくれてありがとう！精一杯生きていきたい。

## ☆山下京子さんの手紙を読んで☆

・私は普段の生活の中で、いのちについて考えることはありません。今こうしてなんの不自由もなく生活していることが当たり前のことだと思っていました。きっと他の人も同じだと思います。でも3年生になって卒業という事実を目を向けるようになってから「時間」の大切さや速さが気になり出しました。後悔したってもう戻れないんだと、改めて思うようになりました。それと同じで、人は「死」を意識しなければ「生きる」ことについて本気で考えることはないと思います。限られた時間の中でしか生きられない。そう思うと1秒がとても大切なもののように感じられます。いのちを大切にすること、それはこの日常がすべて当たり前のことなんかでなく、確実に終わりに向かっている、ということをお忘れずに生活することだと思います。こんな貴重な時間の中に誰かを傷つけたり、殺したりする暇はないはずですよ。

## 10 実践を終えて

### (1) 先生の振り返り

本校に転勤して間もない私にとって、組織的な教育活動の中に、いかにこの「命の大切さを実感させるプログラム」を組み入れていくかということが、最も大きな課題だった。

しかし、保健室で接する生徒の内面的な姿から、自尊感情のあり方にふと疑問を感じ、何としてでも実践に取り組みたいという思いが募った。

保健室で出会う生徒が、自分のことを大切に思えないなど、自尊感情の持ち方に疑問を覚えるとともに、これまで、共に成長することができた生徒の姿が思い出された。心理的な不安定さから自傷行為を繰り返す姿、自己万能感からなかなか抜け出せず周りを巻き込み振りまわしていく姿、死と隣り合わせの疾病を抱えながらも学校生活を楽しむことを望み最期まで病と闘った尊い姿、事故で亡くなる前日に頑張っていることを笑顔で報告に来てくれた生徒・・・

**“今を大切に、生きていくこと” 多くの人に守られ支えられてきた、かけがえのない命というものを自分がどう使っていくのか？ 自らの生き方を考えさせる機会をつくるために、私に何ができるのか？・・・まさに私自身に課せられた大きな課題であると感じた。**

そして、次世代を担う彼らと共に、また殆どの生徒が卒業後親元を離れ生活していくことを考え合わせ、保護者とともに考える機会を是非とも創りたいという強い意志が、自分の中に存在していることに気づいた。そこで自分にできるところから始めてみよう、まずは教育相談係として相談日より「いのちのともしび」を定期的に発行するようにした。

次に、既存の教育活動を命の大切さを実感させる教育として、見直すことができないかを検討しながら、養護教諭の立場で展開できる生徒保健委員会活動と、それを基盤とし対象者を広げた体験活動を計画し、就業体験事業担当者に理解と協力を得て、事前指導を加えた教育プログラムの実践を行っていった。

さらに生徒指導部と連携し実施するための協力を依頼し、人権教育のホームルームと講演会を学校全体の取組として実施することにこぎつけることができた。

講演会開催に至るまでは、特に“死”を扱うことに対する抵抗や不安がかなりあり、生徒指導部の担当者とは何度も話し合い、職員の理解や協力が得られるように、企画書の提出から講師選定の理由など、具体的な検討資料を作成し、各学年の教師に指導の流れを順序立てて説明していくことを繰り返し行った。

振り返ってみると、私自身を動かしているものは、他者を傷つける誹謗中傷や陰湿ないじめ等、心無い行動を自らの気づきから予防していく動きへと導けないか、生徒たちにもう一度、自分の大切な時間の使い方、命の使い方について考えさせる機会をつくりたい、そして人とのつながりや、思いやりの心を大切にすることを、見守る私たち大人のまなざしのもとで、自分自身の生き方を考えさせたいと思う一心からだったように思う。

### 講演会に来られた保護者の方からのメッセージ

大変貴重なお話をありがとうございました。  
何気ないこの瞬間を… こどもたちとの、多くの人たちとの時間を、大切にしていきたいと改めて感じました。  
また、人の幸せとは… 忘れかけていたものを、考えさせられました。

この実践が、自らの命を守り、自分の生き方をみつめていく機会にどれだけ役立ったのかは目に見える形では分からないが、生徒の感想文から、こちらの予想を上回る反応がうかがえ、生徒が今の自分を真摯にみつめ、これからの生き方を考えていこうとする素直な気持ちが伝わってきた。実践を行った担任からも、自身の生き方を考えさせられ、忘れかけていた純粋さに気づかされたなどの感想がよせられ、繰り返しこの取組を続けていきたいと実感した。

### (2) 今後の課題

今回体験的活動の前後に実施した「命の大切さ実感尺度」の結果から、自己肯定感・有用

感の低さがうかがえた。その他、感情を何かで表現することの少なさや自然のすばらしさに目をむけ感動する機会の少なさ等、生徒の実態が推察された。このことから、今後も生徒には、人とのつながりを大切にしたい体験活動や感動体験を積み重ねていくことが大切である、ということを実感した。

#### ア 授業実践上の課題

今後、彼らに命の大切さを実感させる機会は益々必要となってくる。本校では教育課程上どこに位置づけられるかを考え取り組んでみたが、学年を追うごとに深まっていく取組にはなっていない現状がある。学校の教育活動の中で、養護教諭としてどのような取組が可能かを考えての実践に留まっている。しかしながらこのテーマは学校全体であらゆる教育活動で実施することが可能であると今回の実践を通じて認識した。そのためにも少しずつ「命の大切さ」を実感させる教育の拡がりを目指し、職員研修を行うなどの働きかけを続けていくことが、実践につながる力になっていくのではないかと考えている。

#### イ 家庭・地域との連携についての課題

家庭においては、学年通信・相談日よりなどによって引き続き対話の機会を持つことを心がけていきたいと考えている。また地域においては、自尊感情を高める上でも、体験的な活動を取り入れて実施したいと考え、ボランティア活動も考えてみたが、なかなか時間が合わず実施できなかった。今後も積極的に地域とのつながりを築いていきながら、できることを模索し続けたい。

#### ウ 学校の組織運営上の課題

養護教諭の立場から学年や学校全体に働きかけるためには、教員間の理解や協力を十分得ながら進めていく必要がある。死と向き合うホームルームや講演会の企画は趣旨説明や調整に時間がかかるので、組織で役割分担して実施していくことが不可欠であった。他の教員と共に働きかけることの重要性和意義を実感させられた嬉しい機会となった。

今後も生徒や教員が自身の生き方をみつめ大切に考えていける環境づくりと、『いのちの大切さ』を各職員が自らの言葉で語り、実践へとつながるような研修の機会を設定することが必要であると実感している。

## 11 参考・引用文献

- ・アルフォンス・デーケン 『よく生き よく笑い よき死と出会う』新潮社 2003
- ・エリザベス・キューブラー・ロス 他 『ライフ・レッスン』角川書店 2001
- ・藤井理恵・藤井美和共 『たましいのケア』いのちのことば社 2000
- ・日野原重明 編著『死をみつめ、今を大切に生きる』春秋社 2002
- ・兵庫県立教育研修所『命の大切さを実感させる教育プログラム』実践事例集 2007.3
- ・兵庫県高等学校生徒指導協議会 編『高校生 ―いまをどう生きるか―』  
兵庫県高等学校生徒指導協議会 2007
- ・河原まり子他『さよなら、ありがとう、ぼくの友だち ペットを失ったあなたへ』  
岩崎書店 1998
- ・山下京子『彩花がおしえてくれた幸福』ポプラ社 2003
- ・CD【講話集】いのちを見つめて 全12巻 制作 NHKサービスセンター